



2024年12月27日

各位

会社名 富士ソフト株式会社
代表者名 代表取締役 社長執行役員 坂下 智保
(コード番号 9749 東証プライム市場)
問合せ先 経営財務部長 小西 信介
(TEL 045-650-8811)

(追加) 株式会社BCJ-88による当社株券等に対する公開買付けの状況に関するお知らせ

当社は、2024年12月19日付「株式会社BCJ-88による当社株券等に対する公開買付けの状況に関するお知らせ」にて公表のとおり、FK株式会社による当社の普通株式（以下「当社株式」といいます。）及び本新株予約権（注）（以下、「当社株式」及び「本新株予約権」を総称して「当社株券等」といいます。）に対する2回目の公開買付け（以下「第2回FK公開買付け」といいます。）に対して、賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様及び本新株予約権の新株予約権者の皆様に対して第2回FK公開買付けへの応募を推奨する旨を決議し、株式会社BCJ-88（以下、ベインキャピタル・プライベート・エクイティ・LPが投資助言を行う投資ファンド及びそのグループを個別に又は総称して「ベインキャピタル」といいます。）による当社株券等に対する公開買付け（以下「ベインキャピタル公開買付け」といいます。）に対して反対の意見を表明する旨を決議しております。

一方、2024年12月18日付で、ベインキャピタル（株式会社BCJ-88）より、「富士ソフト株式会社株式（証券コード：9749）に対する公開買付けの買付条件等の変更に関するお知らせ（賛同に係る前提条件の放棄等）」（以下「12月18日付ベインキャピタルプレスリリース」といいます。）にて公表されているとおり、ベインキャピタルは、ベインキャピタル公開買付けにあたり、前提条件①（ベインキャピタル公開買付けに対して、当社が賛同する旨の意見を表明する旨の当社における取締役会決議がなされ、これが法令等に従って公表されており、かつ、かかる賛同意見が変更又は撤回されていないこと）を放棄するとともに、ベインキャピタル公開買付けの買付予定数の上限を31,444,443株（所有割合：49.89%）に設定しており、その理由を併せて述べております。ベインキャピタルの述べる当該理由に関し、当社の意見をお伝えさせていただきます。

ベインキャピタル（株式会社BCJ-88）は、12月18日付ベインキャピタルプレスリリースにおいて、上記前提条件①を放棄した理由について、当社の特別委員会の委員である独立社外取締役5名が、3D OPPORTUNITY MASTER FUND（以下「3D社」といいます。）の招集請求を受けて2022年12月4日に開催された当社の臨時株主総会（以下「本臨時株主総会」といいます。）において選任された者であるため、当社の独立社外取締役及び特別委員会の3D社からの独立性には疑念があり、ベインキャピタル公開買付けに関して当社の株主の皆様の利益を尊重した適切な意見表明がなされることはおよそ期待できないと判断したためである旨を述べております。

しかし、ベインキャピタルが指摘する5名の独立社外取締役のうち3名は、3D社が提案した候補者ではなく、本臨時株主総会において当社取締役会が独自に提案した候補者であり、3D社と何らの関係を有しておりません。また、残りの2名についても、当初3D社から提案された取締役候補者ではありましたが、当初3D社から提案された取締役候補者であったということ以外に3D社と特段の関係はなく、当社取締役会としても、両名と面談を行った上、3D社からの独立性に問題がなく、当社の独立社外取締役として適任であると考えて、会社と株主双方の提案として本臨時株主総会に上程し、株主様のご承認を得たものです（かかる選任の経緯については、2022年11月7日付「臨時株主総会の開催日時等の決定並びに臨時株主総会の付議議案及び株主提案に対する

当社取締役会の意見に関するお知らせ」においてお知らせしているとおりです。)。上記5名の独立社外取締役は、取締役を選任された後も、当社の独立社外取締役として一貫して3D社から独立した立場で職務執行をしており、例えば、2024年2月14日付「株主提案に対する当社取締役会の意見に関するお知らせ」において公表しているとおり、当社の取締役会は、直近で開催された2024年3月の定時株主総会における3D社の株主提案に対して反対の決議を行っているところ、その際にも上記5名の独立社外取締役は全員3D社の株主提案に反対しております。

このように、公表されている客観的な事実経緯に照らして5名の独立社外取締役が3D社から独立して取締役としての職務執行を行っていることは明らかであるにもかかわらず、単に3D社の招集請求を受けて招集された本臨時株主総会において選任されたことをもって、3D社からの独立性に疑義があるかのように述べるベインキャピタルの主張は何ら根拠のない主張であり、全くの事実誤認です。当社の独立社外取締役及び特別委員会の信用や名誉を毀損するおそれがあり、当社として看過することはできないものです。

加えて、ベインキャピタルは、12月18日付ベインキャピタルプレスリリースにおいて、当社が、3D社主導のプロセスで非公開化を検討しており、プロセスの公正性に疑義があることも、ベインキャピタル公開買付けに関して当社の株主の皆様の利益を尊重した適切な意見表明がなされることがおよそ期待できず、上記前提条件①を放棄した理由であると述べております。

しかし、当社としては、特別委員会及び当社取締役会における慎重な検討のもと、KKRを含む複数のファンドと協議をし、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の観点から公正に検討を重ねた結果、2024年9月4日付の「FK株式会社による当社株券等に対する公開買付けに関する賛同の意見表明及び応募推奨のお知らせ」にて公表のとおり、FK株式会社による当社株券等の公開買付けに対して、賛同の意見を表明するとともに、応募を推奨する旨を決議したのであり、当社のこれまでの検討プロセスについて、公正性に疑義があるというベインキャピタルの主張もまた、全くの事実誤認に基づくものです。

なお、当社は、11月15日付プレスリリースにて公表のとおり、特別委員会から提出を受けた同日付「追加意見書」において「当委員会は、取締役会に対して、Bainと当社との間で締結された秘密保持契約に基づき、Bainに開示した一切の秘密情報の破棄をBainに請求すべきである旨、あわせて意見する」と述べられていたことを踏まえ、2023年8月10日付で当社がベインキャピタルから提出を受けた「秘密保持に関する誓約書」の規定に基づき、当社より開示した秘密情報を破棄するよう求める情報破棄請求を2024年11月15日付で行っております（当該「追加意見書」の内容については、11月15日付プレスリリースをご参照下さい。）。その後、ベインキャピタルから、情報破棄請求に対する回答を得られなかったことから、当社は、2024年11月15日以降も、ベインキャピタルに対して複数回にわたり情報破棄請求をしており、2024年12月17日付「株式会社BCJ-88による当社株券等に対する公開買付けに係る当社取締役会の意見（反対）に関するお知らせ」の公表に合わせ、再度ベインキャピタルに対して情報破棄請求を要請しているものの、現時点においてベインキャピタルから当該情報破棄請求に対応した旨の連絡を受けておりません。当社としては、2024年12月11日付でベインキャピタル（株式会社BCJ-88）が公表した「富士ソフト株式会社（証券コード：9749）からの情報廃棄要請と当社の対応に関するお知らせ」において、「公開買付者（注：株式会社BCJ-88）は、本日、対象者（注：富士ソフト）に対して、対象者の株主の皆様のために引き続き当社の提案について真摯に検討すること、及び本公開買付けを滞りなく開始するために対象者の秘密情報へのアクセスを認めていただくことを要請しております。」と記載されているとおり、ベインキャピタル（株式会社BCJ-88）は、当社による「秘密保持に関する誓約書」の規定に基づく情報破棄請求について認識しつつも、あえてそれに応じていないものと認識しております。

今後、当社として開示すべき事項が生じた場合には、速やかに公表いたします。

（注）「本新株予約権」とは、下記（i）から（iii）の新株予約権を総称していいます。

- （i）2022年3月29日開催の当社取締役会の決議に基づき発行された第5回新株予約権（行使期間は2024年4月1日から2027年3月29日まで）
- （ii）2023年3月28日開催の当社取締役会の決議に基づき発行された第6回新株予約権（行使期間は2025年4月1日から2028年3月28日まで）

(iii) 2024年3月26日開催の当社取締役会の決議に基づき発行された第7回新株予約権（行使期間は2026年3月27日から2034年3月24日まで）

以 上